

基本は3「正」と「適時適切」

コンプライアンス経営で かながわ福祉サービス振興会

かながわ福祉サービス振興会(理事長＝板橋悟ロイヤルホール社長)は14日、横浜市内で介護事業所のコンプライアンス経営についてのセミナーを開催した。内部監査業務についての企業コンサルタントを行っている戸村智憲日本マネジメント総合研究所理事長は、「難しい条文を暗記したり、内部統制の仕組みを作るなどかたちだけでは機能しない。まずは、正直、正確、正式の3「正」を「適時適切」に行うという原則を徹底することが大切」と秘伝を伝授した。

セミナーで秘伝を伝授

戸村理事長は、国際連合の職員として内部統制業務を担当するなど国際的な視野も広い内部監査業務のコンサルタントだ。セミナーでは、コムスン事件を一つの経緯として介護業界でも必要性が高まっているコンプライアンス経営について、「ポイントは当たり前前のごとを当たり前に行うこと。かたちだけを整えても機能しない」と話した。

そう言い切るのは、これ

までの一般企業のコンプライアンス経営の失敗事例やいくらやっても社内「根付かない研修の実態を見てきたからという。

「法令遵守に基づく経営の当事者は社員全員。でも、難解な法令や条文を上から教え込む研修をして、それはすぐに忘れてしまふ。まずは、基本的な理念を確認することが必要なのです」(戸村理事長)

一般的にコンプライアンス

経営という点、組織内に内部監査のしくみを設けて



全社員の理念の共有が大切という

法規類を周知徹底するという方法を考えるが、それは「仏を作って魂入れず」になりがちだ。もちろん未然に不正行為を防ぐチェック体制を設けることも大切だが、それより大切なのは理念を全社員が共有することという考えだ。

という「適切な」対応をしていけば「廃業」という最悪の結末は避けられたと分析した。事実を隠して、いつまでも人員基準違反を継続し、虚偽の報告や廃止届けの提出という誤った手段をとったことが問題という。

そこで紹介する原則が「3つの「正」と「適時適切」の7文字の原則だ。

例えばコムスン事件を例にとっても、人員配置基準の違反の事実を「正直」に、「正確」に、分かった時点(適時)で手続きを踏んで行政に(正式)報告する

「(戸村理事長)とも。組織が継続的に成長していくために必要な「あなたをもっと信頼するためのツール」と呼びかけていくことが大切とアドバイスした。同会では、9月にも介護事業所のコンプライアンス経営についてのセミナーを開催する。

施及責飯展開で曾又減益

ーリントンハウス2件で営

不動産情報サイト大手

なく、高齢者向け賃貸物件

掲載件数は高齢者向け賃